

学校教育目標 『一人一人が輝き、かかわり合いながらともに成長する児童の育成』



校訓 「正直 勤勉 愛語 進取」

笠野だより

笠野小学校だより 第10号

令和3年1月7日

Tel 288-8651 Fax288-8652

e-mail

kasano-es@m2.spacelan.ne.jp

まとめの3学期

校長 香林 直晴

昨年中は、新型コロナウイルスの影響で例年とは違う1年となりましたが、本校の教育活動に皆様の温かいお力添えをいただき、誠にありがとうございました。本年も、どうぞよろしくお願いいたします。

子どもたちは、11日間の冬休みを事故なく過ごし、全員元気に3学期初日を迎えることができました。静かだった校舎に子どもたちの姿と声に戻り、いつもの賑やかな学校生活が始まったことをたいへん嬉しく思います。始業式では、一人ひとりの引き締まった表情から、「今年も頑張るぞ。」という意気込みが伝わってきました。年があらたまれば心もあらたまります。新しい年を迎え、自分自身の行動や考えを見直すよい機会にしたいと思えます。

さて、3学期は一年のまとめの時期です。現学年で身につけるべき学力をしっかりと身につけ、次の学年へと進級しなければなりません。4月になって今まで学んだことがリセットされ、また最初からということのないよう、学びを定着させる必要があります。

また学力以外にも、その学年にふさわしいリーダーシップや思いやりといった心や態度、行動があります。そうした人としての力（人間力）も身につけなければなりません。そう思うと、今一度気を引き締め直し、職員が一丸となって目の前の子どもたちに向き合っていかなければ、と思っています。

早いもので、6年生は3月19日（金）の卒業式、1～5年生は3月24日（水）の修了式まで、あと2か月余りとなりました。それぞれの目標に向かい、一日一日を大切に、友達と仲良く、楽しい学校生活を過ごしてほしいと思います。ご家庭におかれましても、様々な機会を捉え、励ましの言葉をかけていただきますよう、よろしくお願いいたします。

また、新型コロナウイルスの感染拡大が止まりません。これまで同様、朝の健康観察、検温、マスク着用等にご協力いただきたいと思います。

1月の生活目標 「気持ちのよいあいさつをしよう」

毎学期、最初の月は「あいさつ」を生活目標に掲げ、家庭や地域、学校でしっかりとあいさつができるよう取り組んでいます。

今月は、「気持ちのよいあいさつをさかせよう」という取組をします。登校時に家族や地域の人に気持ちのよいあいさつができていたと登校班のリーダーが判断したら玄関にある台紙にシールを貼るという取組です。

保護者の皆様には、ご協力をよろしくお願いいたします。



校内書き初め大会

6日（水）に、校内書き初め大会を実施しました。子どもたちはとても集中し、丁寧に書き上げていました。校内の書き初め展で、1月6日（水）から14日（木）まで展示します（16:30まで）のでどうぞご覧ください。入選者は次のとおりです。（1、2年生は硬筆、3～6年生は毛筆）

1年	N. S	2年	M. F
3年	I. K T. R	4年	F. R
5年	S. K	6年	H. N S. A

今年度は、公民館での展示は行いません。また、公民館主催の左義長が1月15日（金）13:10から、行われます。



肯定的な表現で脳を鍛えよう！

以前読んだ本で私がいつも心がけるようにしていることがあります。その一部を紹介します。

マイナス思考でもっと積極的になりたいと思っている人はたくさんいるのではないかと思います。そんな時どうしたらよいか、こういう人にはマイナス思考の回路ができてしまっています。この回路をプラス思考に切り替えていくのです。どうするかというと、前向きな言葉を繰り返し使うのです。そうすることで、プラス思考の回路が強化され、使われなくなったマイナス思考の回路が弱まります。そして、脳は次第にプラス思考へと変わっていくのです。

「腹が立つ」「いやだ」「嫌いだ」といったマイナス感情を抱くと、脳内には怒りの伝達物質「アドレナリン」や痛みを伝える「サブスタンス P」などがつくられます。これらが引き金となって、気分が悪くなったり、集中できなくなったりするのです。一方、「好き」「いいな」「楽しいな」などというプラス感情を抱くと、脳内で「ドーパミン」や「エンドルフィン」などがつくられます。この物質は「ヤッター」という快感を発生させるとともに、やる気を起こし、健康を促し、若さを保つ働きを持っています。やる気が出れば、努力を惜しまなくなり、勉強もスポーツも好成績が期待できるのです。思考がプラスになるかマイナスになるかは結果に大きな違いをもたらします。ですから、前向きな言葉、「やれる」「できる」「がんばれる」「うれしい」「ありがとう」など、こうした言葉を毎日の生活の中でどんどん使っていきましょう。初めの3週間は、習慣を変えるために「前向きな言葉を1日10回以上使う」を目標にするのも一つの方法です。

プラス思考になると、自然とプラス感情が生まれてきます。このとき、脳内で「ドーパミン」が放出され、元気になり、やる気が出ます。お子さんにも前向きな言葉を使うよう教えてあげてください。プラス感情が芽生えてやる気が出れば、楽しみながら勉強ができ、成績も上がるのです。

出典「だから何事もうまいく。ラクラク実践法」